

2022. 10. 31

第 3 回 WG CCS 支援策に関する要望

日本製紙連合会

CO₂を資源とみなして利用するという視点が重要である。

製紙業界では、黒液や木質バイオマスを燃料として燃焼し熱利用するボイラーに適用することにより、BECCS によるネガティブ・エミッションが期待できる。

欧米などの CCS 先進国では、CCS 事業に対する政府支援措置が CAPEX・OPEX を通じた事業全体で補助率は 100%ということであるので、我が国でもこれらの事例に倣った体系として頂きたい。

具体的には、以下の支援の組み合わせ等により、上記要望の実現（支援年数＝10 年～25 年程度）をお願いしたいと考える。

- ・ CAPEX 支援（直接補助金、輸送/貯留料の無償化を含む）。
- ・ 稼働時の支援（OPEX 支援：直接補助金、CO₂削減支援：CO₂貯留税額控除・排出クレジット免除または炭素クレジット付与・炭素税免除、収益支援：固定価格買取）
- ・ 資金調達支援（公的支出、低金利融資、債務保証）
- ・ 補助率：海外事例の多くで 100%～100%+ α となっており、同等な補助率をお願いしたい

以上